

豪雪地域の在宅療養を支援する継続看護に関する研究：豪雪地域の医療・福祉専門職から見た在宅療養の困難とそれらへの取り組み

著者	酒井 禎子, 加藤 光寶, 直成 洋子, 飯田 智恵, 内藤 知佐子
雑誌名	看護研究交流センター年報
巻	18
ページ	11-12
発行年	2007-09
URL	http://hdl.handle.net/10631/380

豪雪地域の在宅療養を支援する継続看護に関する研究
 ー豪雪地域の医療・福祉専門職から見た在宅療養の困難とそれらへの取り組みー

酒井禎子, 加藤光寛, 直成洋子, 飯田智恵, 内藤知佐子
 新潟県立看護大学

キーワード：豪雪地域, 在宅療養, 専門職, 継続看護

目的

本研究の目的は、豪雪地域の在宅療養を支援する継続看護の課題を検討するために、豪雪地域で要介護高齢者の在宅療養を支援している医療・福祉専門職からみた在宅療養における困難と、それらに対する取り組みを明らかにすることである。

研究方法

豪雪地域において、在宅療養者とその家族への支援に関わる医療・福祉専門職で研究協力に同意が得られた者を対象とし、半構成的なインタビューガイドを用いた面接法あるいは質問紙調査を行った。研究対象者には、調査協力の自由意志の保障、プライバシーの保護などについて書面と口頭で説明し、同意の署名を得た。得られたデータより、各専門職からみた豪雪地域の在宅療養における困難や課題とそれらに対して専門職が行っている取り組みにあたる内容を抽出し、類似した内容で分類、その意味を表す名称をつけた。

結果

本研究で対象となった専門職は、同一の豪雪地域内で退院調整や在宅療養支援に関わる医師 3 名、看護師 6 名、医療相談員 1 名、理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、薬剤師 1 名、ケアマネージャー 2 名の計 15 名であった。分析の結果、豪雪地域の専門職からみた在宅療養における困難として表 1 のような 7 カテゴリー、またそれらの困難に対して専門職が行っている取り組みとして表 2 のような 4 カテゴリーが抽出された。

表 1 豪雪地域の専門職からみた在宅療養における困難

カテゴリー	サブカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
退院調整における困難さ	療養の場の移行に伴う意思決定と調整の困難	訪問・福祉サービスが抱える課題	効果的な訪問サービスの充実に向けた困難
	在宅への移行に時間がかかる		在宅療養支援に活用できる地域資源の不足
	継続性を見越した関わりの必要性		利用者のニーズと法律のギャップ
在宅での介護力の不足	核家族化・高齢化による介護力の不足	専門職間の情報共有の困難さ	他職種と情報共有する機会をもつことの困難
	介護者の孤立		個人情報保護法による壁
	仕事と介護の両立の困難		専門職間でのリーダーシップの必要性
在宅で健康管理を行っていることの困難さ	実践につなげる家族への介護指導の困難	豪雪地域が抱える課題	家に来てくれる専門家の必要性
	療養者がひきこもりの状態になりやすい		採算がとれる経営の困難
	緊急時の対応における困難		高齢者介護・サービスの情報、教育の不足
	予防的ケアの必要性と困難		豪雪期の訪問・送迎の大変さ
介護者が抱える負担	自分自身の生活への負担		
	介護に対する不安		
	療養者や周囲の人々との関係性から生じるストレス		

表2 豪雪地域の専門職が行っている取り組み

カテゴリー	サブカテゴリー
無理なく介護できる環境の構築と指導	家族の負担の軽減を第一に考える
	家族の現状との折り合いをつける
	柔軟で臨機応変な対応
	サービス利用を高めるための工夫
エンパワーメントを重視した介護力の育成	セルフケア能力に応じた工夫
	先に眼を向けた健康教育
	在宅療養への自信を高める
	介護者のよりどころをつくる
	家族への現状理解を促す
情報の共有とゴールの一本化	療養者・家族ととりまく専門職でのミーティング
	療養者・家族－専門職間、多職種間の垣根のない関わり
	情報へのアンテナをめぐらす
	情報の共有化に向けた記録物の工夫
	家族を中心とした情報ルートの確立
	退院調整のシステム化
変化をおこす	連携に対する意識を高め、ルートをつくる
	地域への働きかけ

考察

核家族化・高齢化を抱える豪雪地域では、在宅での介護力の不足やそれに伴う介護者自身の生活への負担感が在宅療養の継続を困難とさせるひとつの要因となっており、それに伴って専門職はいかに介護者の負担を軽減し、そのもてる力を最大限に発揮して無理なく介護が継続できるかをめざす取り組みを駆使しながら介護者らを支援していた。また、在宅療養者と家族に対する加藤ら（2006）の調査結果と同様に、専門職からも在宅療養における緊急時の対応の難しさや「来てくれる専門家」へのニーズが表出されていた。今後は、療養者・家族と多職種の連携による継続性に向けた情報の共有・交換ルートの充実や、経営と住民両方のニーズを満たす地域支援システムの構築も必要であり、ヘルスプロモーションの視点から、対象となる個人だけでなく個人をとりまく環境への働きかけも含めて保健・医療・福祉の専門職が連携していくことの重要性が示唆された。

結論

豪雪地域の在宅療養を支援する専門職の見方から、介護者の負担を軽減し、介護力不足を補うための地域資源の充実と、地域のヘルスプロモーションを高める専門職の連携の必要性が示唆された。

謝辞

本研究におきまして、ご協力いただきました医療・福祉専門職の皆様にご心より感謝申し上げます。

文献

加藤光實，直成洋子，酒井禎子他（2006）：豪雪地域の在宅療養を支援する継続看護に関する研究－豪雪地域で在宅療養を行う療養者とその家族の療養生活の特徴－，平成17年度看護研究交流センター年報，45-52.